

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年9月5日（月）

2 確認箇所

- ・地下水バイパス一時貯留タンクエリア
- ・サブドレン一時貯水タンクエリア 他

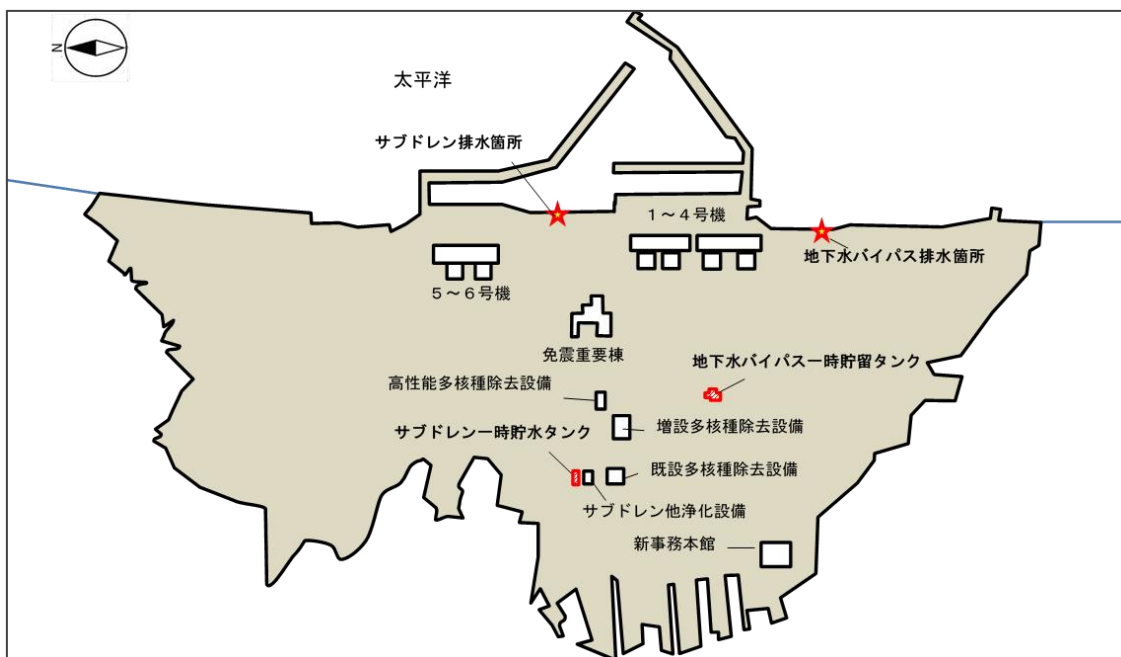
3 確認項目

- (1) 地下水バイパスの排水状況
- (2) サブドレン処理水の排水状況

4 確認結果の概要

福島第一原子力発電所では、原子炉建屋等に流入する地下水量を低減するため、地下水バイパスやサブドレン他水処理設備などの施設を設置し、運用目標に適合した水質の地下水を定期的に海洋へ排水している。（図1）

今回、地下水バイパス一時貯留タンク及びサブドレン一時貯水タンクからの排水が予定されていたことから、状況を確認した。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図

(1) 地下水バイパスの排水状況

地下水バイパス一時貯留タンクは全9基からなり、3基毎にグループ1から3までに分けられており、今回はグループ2から排水が行われた。

(写真1)

- ・排水を行わないグループ1及び3の排水弁が「全閉」となっていることを確認した。(写真2)
- ・排水を行うグループ2の排水弁が「全開」となっていることを確認した。(写真2)
- ・東京電力社員が、タンクエリアにおけるポンプが起動したことや、ポンプや周囲の配管に特に異常が無いことを確認していた。(写真3)
- ・排水開始後、目視の範囲で施設に異常は確認されなかった。



(写真1)

地下水バイパス一時貯留タンク
エリアの外観 (北東側から撮影)



(写真2-1)

排水しないグループ1排水弁の「全閉」状況



(写真2-2)

排水しないグループ3排水弁の「全閉」状況



(写真2-3)
グループ2排水弁の「全開」状況



(写真3)
ポンプ起動の確認状況

(2) サブドレン処理水の排水状況

サブドレン一時貯水タンクは全11基からなり、今回はこのうち1基(タンク(F))から排水が行われた。

- 排水にあたっては、循環操作を行っていたサブドレン一時貯水タンク(B)の出口弁の「全閉」操作を実施及び排水予定のサブドレン一時貯水タンク(F)以外の出口弁の「全閉」を確認した後にサブドレン一時貯水タンク(F)の出口弁の「開」操作が実施された。なお、地下水バイパス一時貯留タンクの排水と同様に東京電力社員1名が手順に沿って作業を行うとともに、スマートフォンを用いた免震重要棟集中監視室の当直員とのクロスチェックも実施していた。(写真4～6)
- サブドレン一時貯水タンク(F)出口弁の「開」操作後、免震重要棟集中監視室からの遠隔操作により移送ポンプ(A)が起動された。なお、移送ポンプ稼働後も施設に異常は確認されなかった。(写真7)
- 排水開始後、目視の範囲で施設に異常は確認されなかった。また、物揚場北側のサブドレン排水箇所を確認した。(写真8)



(写真4)
タンク (B) の出口弁「閉」操作状
況



(写真5)
タンク (F) 以外の出口弁「閉」の
確認状況



(写真6-1)
タンク (F) の出口弁「開」操作状
況



(写真6-2)
スマートフォンを用いた出口弁の確
認状況



(写真7)
ポンプ起動の確認状況



(写真8)
サブドレン処理水排水口の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。